

自然ネットだより

北九州市の豊かな生物多様性を次世代に

第 97 号

(2023 年 10 月 6 日)

発行：北九州市環境局

環境監視課自然共生係

☎ 093-582-2239

協力：北九州市自然環境保全

ネットワークの会



響灘ビオトープが国の“自然共生サイト”に内定！

生物多様性における国際目標の 1 つとして、2030 年までに世界の陸と海の 30%以上を保全する「30 by 30(サーティーバイサーティー)目標^{※1}」が定められました。その目標を達成するため、環境省は、民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域を“自然共生サイト”として認定する制度を令和 5 年度から開始しました。

2023 年 10 月、響灘ビオトープが、自然共生サイトに認定されることになりました。全国で第 1 号の認定になります。響灘ビオトープには、ベッコウトンボ(昆虫類)、チュウヒ(鳥類)やカヤネズミ(哺乳類)など絶滅危惧種を含む数多くの生物が生息し、自然とのふれあいや生物多様性の保全を進めたり、市民が楽しみながら生物多様性について学べたりする拠点となっています。また、認定区域のうち、保護地域との重複を除いた区域は OECM^{※2}として国際データベースに登録されます。今回の内定により、世界目標の達成についても、貢献していくことになります。

自然共生サイト「響灘ビオトープ」の特徴

- ◇ 廃棄物最終処分場の跡地につくり出された貴重な自然環境が保全されている
- ◇ 主に湿地・草地・砂礫地で構成されており、環境省絶滅危惧 I A 類のベッコウトンボや同 I B 類のチュウヒなどを含む 800 種もの生物が生息している
- ◇ 環境省が指定する「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」にも選定されている
- ◇ 市内小学生が校外で行う環境学習の場となっている他、市民の自然環境学習の拠点になっている



響灘ビオトープ



チュウヒ(国・絶滅危惧 I B 類)



チュウヒをモデルにしたマスコットキャラクター「ひびちゅ」



ベッコウトンボをモデルにしたマスコットキャラクター「べっち」



ベッコウトンボ(国・絶滅危惧 I A 類)

【用語】

※1 30 by 30 目標

2030 年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させる(ネイチャーポジティブ)というゴールに向け、2030 年までに陸と海の 30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標です。現時点で、日本では、陸域の 20.5%、海域の 13.3%が国立公園などの保護地域として保全されています。

※2 OECM (Other Effective area-based Conservation Measures)

Other Effective area-based Conservation Measures の略で、保護地域「以外」で生物多様性の保全に貢献する地域のことで、日本では、既存の保護地域の拡張のほか、地方公共団体、民間団体、企業などが所有あるいは管理する企業の森、ビオトープ、里地里山等、多様な場所が対象となる可能性があり、「自然共生サイト」に認定した区域のうち、保護地域と重複していない区域を OECM として国際的なデータベースに登録することで「30by30」目標達成を目指します。

北九州市制 60 周年記念 自然講演会【みんなで考えよう「生物多様性」】とは

響灘ビオトープの自然共生サテライト認定を記念し、希少生物や外来生物など身近な生物との関わり方や生物多様性の重要性について、国立環境研究所の五箇公一さんを講師に招いてお話を聞きます。



日時/ 令和 5年 11月 23日 (木・祝) 14~16 時
会場/ 響灘ビオトープ (若松区響町一丁目 126-1)
申込/ 電子申請又は往復はがき(応募者多数の場合は抽選)
費用/ 無料 定員/120 名
その他、自然ネットの会員の活動紹介及びパネル展示等を同時開催



講師/五箇公一さん



お申込み



カブトガニ産卵観察ツアーの報告

7月22日(土)、「日本カブトガニを守る会福岡支部」のご協力のもと、カブトガニ自慢館と曾根干潟を巡って、カブトガニについて学び、曾根干潟での産卵を観察するバスツアーを実施しました。

カブトガニは2億年前からほとんど姿が変わらない「生きた化石」で、名前に“カニ”が入っていますが、クモやサソリに近い生き物です。ある地方の方言では「はちがめ(鉢亀)」と呼ぶそうです。現在の日本では、瀬戸内海一帯と九州北部の数か所に生息しており、その中でも曾根干潟は有数の生息地・産卵地となっています。

カブトガニの産卵は、6~8月の大潮から中潮の日にかけて、満潮前後の2~3時間の間に砂浜に現れ、雌雄ペアのつがいで行きます。波打ち際までやって来たつがいは、水面下の15~20cmの穴を砂浜に掘り、その中に卵を産みます。卵は約50日で孵化に至り、幼生は13~14回脱皮を繰り返して約10年で成体になります。また、カブトガニの産卵時には「産卵泡」という粘り気のある泡が出ます。水面まで上がってきた産卵泡を目印にして産卵中のつがいを探します。曾根干潟では毎年、日本カブトガニを守る会福岡支部の皆さんによる産卵調査が行われています。調査によると、2017年から続いていたつがい数の減少に昨年で歯止めがかかり、本ツアーの時点では、今年の調査では既に100つがい以上確認されているとのことでした。

さて、ツアーではまずカブトガニ自慢館を訪ね、飼育されているカブトガニを観察しながらカブトガニについて学びました。とてもラッキーなことに、脱皮して数日しか経っていない、まだ体が柔らかい状態の個体を観ることができました！その個体と脱皮していない(体が硬い)個体の両方を触らせてもらった参加者からは「(脱皮した個体は)体がぐにぐにと柔らかくて硬さが違った」と驚きの声が上がっていました。その後、曾根干潟へ移動し、産卵観察となりましたが、残念ながらカブトガニを観察することはできませんでした。

干潟での観察の後には、干潟の清掃活動も行いました。海岸沿いのごみの多さに驚きつつ拾い集め、最終的には23袋分のごみを集めました。ごみ拾い中にカブトガニの死骸を拾った参加者もいました。ツアーの最後に、日本カブトガニを守る会福岡支部から参加者へ、カブトガニの脱皮殻をお土産にいただきました！守る会の方からは、昔はカブトガニの脱皮殻はいつも拾えていたけれども、最近のごみが多くて割れてしまい、なかなかきれいな脱皮殻を拾うことができない、というお話しも聞きました。



カブトガニの脱皮後数日の個体(左)との脱皮殻(右)



干潟での解説を聞く様子

welcome

自然ネットに新たに NPO 法人 SoELa が加入！

「自然環境保全ネットワークの会」(通称:自然ネット)は、自然ネット主催の研修会や会員それぞれの実践活動の中で、北九州市の自然環境の保全・復元・創成・利用に貢献することを目的とし、NPO等33団体、北九州市自然環境サポーター148人、事業者14社、学識経験者10人、オブザーバー2機関と北九州市により構成されています(令和5年6月時点)。この度、自然ネットに新しい団体の加入がありましたので、紹介します。

SoELa は、Social Entertainment Laboratory の単語の頭文字をとったもので、神奈川県が主な活動場所ですが、代表理事である岡部佳文さんが若松区出身であることから、北九州市での活動も展開しています。2016年に発足されました。

NPO 法人 SoELa は、幅広い世代の全生活者に対して、地球環境、犯罪、高齢化、地域活性化など社会問題に対する啓発、教育に関する事業をエンタテインメントの手法を用いて行い、主体的に行動を起こす人々で溢れる社会の構築に貢献することを目的としています。この目的を達成するため、社会問題に関する啓発・教育事業、コンテンツの企画開発事業、地域活性化や観光の振興に関する事業などを行っています。

SoELa では、地域の環境活動団体や大学などで監修を行い、教材としての価値を担保したパッケージを制作する地域プロジェクトを実施しており、この度、北九州プロジェクトが発足しました。響灘(洞海湾)の生態系マイアースカードゲームパッケージの制作について、響灘ビオトープ、北九州市立大学教授の監修の下、西日本工業大学、北九州市立大学の学生がデザインを担当し、高校生が体験会のファシリテーターを担当するなど、地元や教育機関と協働して進行中です。カード完成がゴールではなく、カードを使って子ども向け、親子向けワークショップなどでの体験を通して、地域の環境保全について啓発していこうとしています。響灘パッケージを使った体験会は、10月28日(土)ブリヂストン北九州工場、10月29日(日)若松みなとまつり、11月11日(土)、12日(日)エコライフステージなどでの開催が予定されています。



NPO 法人
SoELa
ホームページ

I

自然体験活動インタビュー（響灘ビオトープ編）

響灘ビオトープでは、普段は入れない湿地に入って、網を使って水生生物を捕獲し、観察できる自然体験活動「池に入ってワクワク生き物探し」(通称:池ワク)を、学校の夏休みに合わせて毎年、開催しています。2023年8月24日、池ワクに来園した神原稜平さん(小学4年)にお話を聞きました。



かんばりょうへい
神原稜平さん
小学4年生
(写真左)
かんばらあやな
神原彩那さん
小学3年生
(写真右)

【池ワクで観察できる主な生物】

コガタノゲンゴロウ、ウスイロシマゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、キベリクロヒメゲンゴロウ、コマルケシゲンゴロウ、オオマルケシゲンゴロウ、チビゲンゴロウ、チャイロチビゲンゴロウ、セマルガムシ、マメガムシ、ヒメガムシ、コガムシ、タイコウチ、ヒメズカマキリ、ミナミメダカ、ヌマガエル、トノサマガエル、ハイイロチビミズムシ、ヒメアメンボ、ホルバートケシカタビオアメンボ 他

- Q1. 「池に入ってワクワク生き物探し」を初めて体験したときを思い出してください。湿地(池)に入るとき、どのように思ったか教えてください。
- A1. 楽しいと思いました。目標は、新種を見つけること！
- Q2. 「池ワク」は楽しいですか？どのようなところが楽しいですか？
- A2. 色々な生き物がとれて観察できること、一番ワクワクするのは向かっているとき。今日は何が取れるかなあって。

- Q3. 網にどんな生き物が入ったときがうれしいですか？
- A3. 生き物の種類より、数がいっぱい取れると嬉しい。
- Q4. 将来何になりたいですか？
- A4. 今は特にないけど、以前は、海洋研究所で働きたいと思っていた。社長になってお金をいっぱい稼いで発掘とかに使いたい。もしくは沖縄美ら海水族館で働きたいと思っていた。(おじい様からはビオトープで働いたら？と最近よく言われるとか)

【インタビューを終えて】

湿地に実際に入って、生き物を捕まえて観察したり、どんな暮らしをしているかを想像したり、生き物の立場になって考えることで、知識や経験が増えるだけでなく、家族や友達にも優しい人になれます。稜平さんは、これからもたくさんの自然体験を経験して、北九州市の自然環境を守るリーダーになってくれると確信しました。来年の「池ワク」でまた会いましょう。



自然系施設・行政機関からのお知らせ（10月～）

響灘ビオトープ

野鳥スタンプラリー『ラブ・バード・ラリー』～野鳥が見られる7つの施設を巡り、野鳥スタンプ3つ以上を集めて応募すると野鳥に関連するグッズや参加権プレゼント～

- 日時/2023年9月1日（金）～11月30日（木）時間は施設毎にご確認ください
- 場所/響灘ビオトープ 他 詳しくは右のQRコードからご覧ください。



山田緑地

秋の山田の森フェスタ 2023 ～自然・生き物・植物をテーマとするワークショップを多数開催！体験を通して自然や生物多様性の大切さについて楽しく学べます。10月15日は「ふれあい移動動物園」もやってきます！キッチンカーも数店出店！！～

- 日時/2023年10月14日（土）～10月15日（日）9：30～16：00
- 場所/山田緑地（北九州市小倉北区山田町） 詳しくは右のQRコードからご覧ください。



白野江植物公園

うつくしい蝶と花の風景をめぐるアサギマダラスタンプラリー～渡り蝶アサギマダラの秋の飛来にあわせ、対象施設をめぐるスタンプラリー。対象の12の施設をめぐるスタンプ2つでアサギマダラの好物「フジバカマ」の苗を1つプレゼント～

- 日時/2023年10月1日（日）～10月31日（火）時間は施設毎にご確認ください
- 場所/白野江植物公園 他 詳しくは右のQRコードからご覧ください。



響灘緑地 グリーンパーク

ミニ企画展『植物化石の世界』～私たちの身近に存在する植物の実物化石を展示するとともに、植物化石の世界、植物化石からわかること、植物化石の最新研究などを紹介するもの～

- 日時/開催中～2024年3月31日（日）9：00～17：00 ※原則火曜日休園
- 場所/響灘緑地（若松区竹並 1006） 詳しくは右のQRコードからご覧ください。



北九州市環境局自然共生係

カミキリムシ科2種が特定外来生物に指定 環境省は、カミキリムシ科の2種（ツヤハダゴマダラカミキリ及びサビイロクワカミキリ）について、その生態系及び農林水産業への被害等に鑑み、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」に基づき飼養等、輸入その他の取扱いを規制する特定外来生物として新たに追加し、令和5年9月1日から施行しました。詳しくは右のQRコードからご覧ください。



自然ネットでは、「自然ネットだより」に掲載する自然環境分野の講座・イベント情報、生物情報やその他お知らせを随時募集しています。

掲載ご希望の方や各種情報は、自然ネットの会事務局までご連絡ください。

★自然ネット事務局

〒803-8501 小倉北区城内 1-1 北九州市環境局 環境監視課 自然共生係

TEL 093-582-2239 FAX 093-582-2196 メール kan-kanshi@city.kitakyushu.lg.jp



響灘ビオトープの
公式マスコットキャラクター
「ひびちゅ」